

2017/07/29 (土) @ 大阪大学

「対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法」  
文法研究班 「名詞修飾表現」平成 29 年度第 1 回研究発表会

## ウズベク語の連体修飾構造 —特に「底の接続助詞化」に着目して—

日高 晋介

(東京外国語大学大学院博士後期課程)

### 0. はじめに

本稿は、ウズベク語の連体修飾構造の概要を示したのち、寺村 (1993b) のいう「底の接続助詞化」、つまり連体修飾構造が副詞節として機能する場合に着目する。テキスト<sup>1</sup>からの用例によれば、形動詞による連体修飾構造は接近可能性階層 (Comrie 1989) と階層外までカバーし、一方動名詞は階層外しかカバーしないことが明らかとなった。さらに、後者の連体修飾構造が動名詞＋後置詞の構造に近いふるまいを見せることも指摘する。

本稿の構成は次の通りである。第 1 節で先行研究の記述を参照する。続く第 2 節で接近可能性階層に沿って連体修飾構造の分析・考察を行う。そして、第 3 節で底の接続助詞化に着目する。

なお、例文番号・日本語訳・グロス・下線等の文字修飾は筆者による。ウズベク語の表記はラテン文字正書法に統一する。

### 1. 先行研究

1.1 節で形動詞、1.2 節で動名詞それぞれの記述を参照し、最後に 1.3 節で問題提起を行う。

#### 1.1. 形動詞

先行研究は、形動詞の基本的な機能は連体修飾であると述べている (Reshtov va boshq. 1960: 324, Abdurahmonov va boshq. 1975: 510)。形動詞の機能はそれだけでなく、名詞節述語としても機能する (Asqarova va Jumaniyozov 1953: 15, Abdurahmonov va boshq. 1975: 510)。次に連体修飾節述語 (1) と名詞節述語 (2) として機能する例をそれぞれ挙げる。

(1) [*falokat yuz ber-gan*] joy  
disaster surface give-PTCP.PAST place  
「災害が起きた場所」(Bodrogligeti 2003: 617)

(2) A B-ga [C olama-ni ye-yotgan-i-ni] ayt-di-φ.  
NAME NAME-DAT NAME apple-ACC eat-PTCP.PROG-3.POSS-ACC say-PAST-3SG  
「A は B に C がリンゴを食べていると話した。」(日高 2016: 148)

<sup>1</sup>テキストの概要は以下の通りである。インターネットニュースサイト Ozodlik radiosi (<http://www.ozodlik.org>) からの記事と、*Besh qiz va bir yigit*『五人の女の子と一人の若者』という小説を、形態素解析したデータを用いる。前者は全 48 ページで単語数 約 42000、文字数 約 44800 (一ページあたり、単語数 1500・文字数 1600 で計算している) から成る。後者はいずれも 2014 年 1 月から 8 月、2015 年 7 月から 8 月に掲載された記事を筆者が任意に選んだ。全ての記事の合計単語数は 5149、文字数は 37959 である。

まず、形動詞接辞<sup>2</sup>を表 1 に挙げる。

表 1: 形動詞接辞一覧

-gan 系列形動詞		
過去	現在進行	非過去
-gan/ -kan/ -qan	-(a)yotgan	{-a/ -y}digan

## 1.2. 動名詞

Abdurahmonov va boshq. (1975: 525) では、-(i)sh, -(u)v, -moq 三つの接辞が「動名詞」(Harakat nomi) を形成するとしている。

本稿では、その三つの接辞のうちの一つである、-(i)sh (否定形 -maslik<sup>3</sup>) について取り上げる。これには二つの理由がある。一つに、Abdurahmonov va boshq. (1975: 527) は、動名詞の中でも -(i)sh が非常に多く用いられ、-(u)v, -moq は -(i)sh に比べると多く用いられない、と述べていること。二つ目には、三者それぞれに機能的な差異はないということがある。

次に動名詞による連体修飾構造について述べる。チュルク諸語では、主要部名詞に三人称所有人称接辞を付すことによって、名詞句同士の結合を作ることが可能である。本稿では、この構造を林 (1995) に倣って Possessive Compound<sup>4</sup>と呼ぶ (以下より PC とする)。ウズベク語の PC の構造を示すと、以下ようになる。

### (3) [[N<sub>1</sub>] N<sub>2</sub>-i/-si]

本稿は、以下のように、N<sub>1</sub> が動名詞から成る PC を対象とする。以下、動名詞による連体修飾を表す用例には、動名詞と主要部名詞に太字を付し、上記 (3) のように [ ] を付す。

## 1.3. 問題提起

Comrie (1989) による接近可能性階層<sup>5</sup>を基に分析・考察を行う。まず、以下にその階層

<sup>2</sup> 先行研究では -g'lik/-rlik/-gulik に加え、-ajak/-gusi/-asi, -(a)r/-mas, -(u)vchi も挙げられているが、本稿ではこれらを分析・考察の対象外とする。Abdurahmonov va boshq. (1975: 515) は、-g'lik/-rlik/-gulik は否定も時制も表さないため、形動詞のカテゴリーに入らないと述べる。さらに筆者は、-g'lik/-rlik/-gulik に加え、-ajak/-gusi/-asi も、共時的な視点から形動詞とはみなさない。これは次の二つの理由による。まず生産性が非常に低いことが挙げられよう。筆者の経験からは、kel-「来る」や bo'l-「なる」から kelajak, kelgusi, kelasi; bo'lajak, bo'lgusi「未来」という語しか作ることができない。以上より、本稿は-g'lik/-rlik/-gulik, -ajak/-gusi/-asi を形動詞と見なさず、分析・考察の対象外とする。さらに、-(a)r/-mas は生産性が低く名詞類派生接辞と見なせるため、また、-(u)vchi は頻度が低いため、これらも分析・考察の対象外とする。

<sup>3</sup> Abdurahmonov va boshq. (1975:525-7) は「動名詞」の項で -maslik を取り扱っていない。一方、Bodrogligeti (2003: 575) では、-maslik は -moq, -(i)sh の否定形である、としている。

<sup>4</sup> 林 (1995) は、次の二つの理由により、トルコ語の PC が通常の複合語に較べやや「句」に近い特徴を持つものであると結論付けている：1. 構成要素に多様な成分を含み得る、2. 限定的にはあるが PC の構成要素が統語的自律性を持つ。

<sup>5</sup> Comrie (1989) では、Keenan & Comrie (1977) による接近可能性階層を改訂して用いている (Comrie 1989: 164)。本稿では、Comrie (1989) による改訂された階層を用いる。

を示す。

#### (4) 接近可能性階層

主語 > 直接目的語 > 非直接目的語 > 所有者

この階層について、Comrie (1989: 156) は次のように説明する (以下、Comrie 1989 の日本語訳は松本・山本訳 1992: 168 による): 「主語の関係節化は、他のいずれの位置よりも容易であり、直接目的語の関係節化は、所有者のそれよりも容易だということである。」

さらに、Comrie (1989: 156) は、この階層における二つの普遍性を指摘する。一つは「もしある言語が、この階層上のある位置で関係節を作ることができれば、階層上のより高い (より左側の) すべての位置でも関係節を作ることができる。」という点である。二つ目は「さらに、この階層上のどの位置についても、その位置およびそれより左側のすべての位置で関係節化が可能であるが、それよりも右側の位置では不可能だという言語がおそらく存在する。」

それでは、形動詞と動名詞による連体修飾構造では、それぞれ接近可能性階層のどの位置まで主要部名詞が現れるだろうか。さらに、この階層以外の例が見られるだろうか。先に結果を述べることになってしまうが、「階層外」の用例で、主要部名詞が後置詞のようにふるまう例が見つかった。これについては3節で再考する。

## 2. 分析・考察

以下の表 2 に、テキストデータから収集した連体修飾用法の形動詞の分布を示す (ただし主要部なしの例についても示す)。

表 2: テキストデータにおける連体修飾用法を持つ形動詞・動名詞の分布

		接近可能性階層				階層外	主要部なし	計
		主語	>直接	>非直接	>所有者			
形動詞	-gan	224	40	31	5	20	10	330
	-yotgan	41	6	5	0	3	0	55
	-digan	20	2	10	0	2	2	36
-(i)sh/-maslik		0	0	0	0	41	0	41
計		285	49	46	5	66	12	462

頻度に着目すると、-gan 系列形動詞、特に-gan の頻度が非常に高いこと (-gan だけで全体の 73% (462 例中 338 例) を占める) ことがわかる。さらに、「内の関係」つまり階層内にある連体修飾は形動詞が担い、「外の関係」つまり階層外にある連体修飾は、一部形動詞も担うがほぼ動名詞が担っている。

以下、階層の高い位置から (主語、直接目的語、非直接目的語、所有者) 順に、用例を挙

げる。以下、用例を挙げる際には、形動詞節を [ ] で囲み、形動詞自体を太字にする。

## 2.1. 主語

表 2 を見ると、-gan 系列形動詞では三者全てに主要部名詞が主語である例がある。以下にそれぞれ一例ずつ示す。

- (5) [*qo'chma*<sup>6</sup> *qabulxona-ga* ***kel-gan*** *ishtixonlik ayol*  
mobile reception.room-PL-DAT come-PTCP.PAST NAME lady  
「移動受け入れ所に来たイシュティホン出身の女性」(20\_08\_2014: 41)

- (6) [*Ona zamin-imiz-da* ***yasha-yotgan*** *barcha jumla=y+mo'min inson-lar*  
mother ground-1PL.POSS-LOC live-PTCP.NPST all whole=and+believer person-PL  
「我々の母国の地に住む全ての信心深い人々」(BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 929)

- (7) [*London-da boshlan-ib, Rossiya-ning UlanUde shahr-i-da* ***yakunlan-adigan***  
NAME-LOC start-CVB NAME-GEN NAME town-3.POSS-LOCfinish-PTCP.NPST

*Mongol Rally avto+marafon-i*

NAME car+marathon-3.POSS

「ロンドンで始まってロシアのウランウデで終わるモンゴルラリー自動車マラソン」

(13\_08\_2015: 19)

## 2.2. 直接目的語

前節と同様、表 2 を見ると、-gan 系列形動詞では三者全てに主要部名詞が直接目的語である例がある。以下にそれぞれ一例ずつ示す。

- (8) [*araq+vino sot-ib* ***top-gan*** *g'ayri+qonuniy pul-lar-i*  
liquor+wine sell-CVB earn-PTCP.PAST different+legal money-PL-3.POSS  
「アルコールやワインを売って稼いだ不法な金」(13\_03\_2014: 66)

- (9) [*Toshkent amal-ga oshir-ayotgan*] *ish-lar*  
NAME action-DAT increase-PTCP.PROG work-PL  
「タシケントが実行している仕事」(12\_08\_2015: 11)

- (10) *Ashur fermer [ayt-adigan] gap-i-ni ayt-ib bo'l-gan edi-ø.*  
NAME farmer say-PTCP.NPST talk-3.POSS-ACC say-CVB be-PTCP.PAST PAST-3SG

---

<sup>6</sup> 正しくは *ko'chma* であろう。

「アシュル農夫は、言う話を言い終わっていた。」 (BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 2212)

### 2.3. 非直接目的語

前節・前々節の場合と同様、表 2 を見ると、*-gan* 系列形動詞では三者全てに主要部名詞が非直接目的語の例がある。以下にそれぞれ一例ずつ示す。

(11) [*shia ko'ngilli-lar-i-ning qatl et-il-ish-i tasvirla-n-gan*]  
Shi'ah believer-PL-GEN murder do-PASS-VN-3.POSS draw-PASS-PTCP.PAST

*video surat-lar*

video picture-PL

「シーア派教徒が殺害されることが描かれたビデオ画像」 (12\_07\_2015: 6)

(12) [*birinketin suv ket-ayotgan*] *egat-lar bosh-i*  
one.after.another water leave-PTCP.PROG ditch-PL head-3.POSS  
「次々に水が出ていく溝の先」 (BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 4598)

(13) [*dunyo-da birinchi yadroviy yonilg'i saqlan-adigan*] *ombor*  
world-LOC first nuclear fuel maintain-PTCP.NPST storehouse  
「世界で初めて核燃料を蓄える倉庫」 (27\_08\_2015: 3)

### 2.4. 所有者

この場合、*-gan* のみ用例がある。以下の (14) における下線部 *nutqi* 「(彼の) スピーチ」の所有者は、主要部名詞句 *BMT Bosh kotibi Ban Ki Mun* 「国連総長 潘基文」である。

(14) [*Nagasaki-dagi marosim-da nutqi o'qi-b eshit-tir-il-gan*]  
NAME-ADJLZ ceremony-LOC speech-3.POSS read-CVB listen-CAUS-PASS-PTCP.PAST

*BMT Bosh kotib-i Ban Ki Mun*

UN head director-3.POSS NAME

「長崎の式典でスピーチが読んで聞かせられた国連総長 潘基文」 (09\_08\_2015: 28)

### 2.5. 階層外

*-gan* 系列形動詞には、接近可能性階層に合わない用例も存在する。以下に *-gan*、*-yotgan* それぞれ一例ずつ示す。

(15) [*barg chiqar-gan*] *hol-da...*  
 leaf take.out-PTCP.PAST state-LOC  
 「葉が出た状態で…」 (BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 601)

(16) *Politsiya konvoy-i Ishoq va u-ning o'g'il-lar-i-ni ol-ib*  
 police escort-3.POSS NAME and 3SG-GEN son-PL-3.POSS-ACC take-CVB

*ket-ayotgan] payt-da...*  
 leave-PTCP.PROG time-LOC  
 「警察の護衛がイスホックと彼の息子たちを連れて行っているときに、…」  
 (29\_07\_2015: 11)

次に、主要部名詞について分析する。まず主要部名詞句 26 例全てを以下に挙げる。以下、基本的に名詞語幹のみ挙げる。ただし、括弧内に処格 *-da* がある例 (*hol-da*「状態で」、*payt-da*「時に」) は、その全ての例が処格を伴っていることを表す。なお、括弧内の数字は出現頻度を表す。

表 3: 主要部名詞一覧

<p><i>hol-da</i> 「状態で」 (5)、<i>payt-da</i> 「時に」 (4)、<i>so'z</i> 「言葉」 (4)、<i>o'y</i> 「考え」 (2)、<i>asosiy omil</i> 「基本的な要素」、<i>bir yo'l</i> 「ある方法」、<i>hasharot</i> 「虫」、<i>hisob</i> 「計算」、<i>hujjat</i> 「書類」、<i>illat</i> 「欠点」、<i>narsa</i> 「状況」、<i>niyat</i> 「狙い」、<i>on</i> 「瞬間」、<i>tarz</i> 「形」<i>yoqimli ovoz</i> 「心地よい声」</p>
---

上の表を見ると、抽象的な概念を表す語が多い。しかし、*hasharot* 「虫」のように実体を表す語もある。これは次の (17) のように、*de-gan* [say-PTCP.PAST] で修飾されている。

(17) [*“shirincha” de-gan*] *hasharot*  
 NAME say-PTCP.PAST insect  
 「『シリンチャ』という昆虫」 (BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 3057)

他に、*de-gan* [say-PTCP.PAST] の例は、*so'z* 「言葉」 4 例、*o'y* 「考え」 2 例に見られる。これらの用例全てにおいて、*de-gan* の前に具体的な発話・思考内容が位置する。以下に *so'z* 「言葉」 の例 (18)、*o'y* 「考え」 の例 (19) を挙げる。

(18) [... *Bu aqlsiz jonivor-lar ega-si-ning hid-i-ni*  
 this stupid animal-PL possessor-3.POSS-GEN smell-3.POSS-ACC

*bil-ish-a-di", de-gan] so'z-lar-i Aziza-ning es-i-ga*  
 know-RECP-NPST-3SG say-PTCP.PAST word-PL-3.POSS NAME-GEN memory-3.POSS-DAT

*kel-ib qol-di-φ.*  
 come-CVB remain-PAST-3SG

「…この馬鹿な動物は持ち主の臭いを知っている』という言葉がアジーザの記憶に  
 来た。」 (BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 803)

(19) [... *yoki biror kishi dushmanlik-dan qil-di-φ=mi=kan, de-gan] o'y*  
 or some person hostility-ABL do-PAST-3SG=Q=EKAN say-PTCP.PAST thought

*bilan Ashur fermer qiz-lar-ga qara-di-φ.*  
 with NAME farmer daughter-PL-DAT see-PAST-3SG

「…あるいは誰かが敵対心からやったのだろうか、という考えでアシュル農夫は女子  
 たちを見た。」 (BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 3368)

さらに、最後に、上記以外の二例を挙げる。二例とも同じような内容を表す。(20) は「あ  
 なたが穀物を渡した書類」、(21) は「穀物を渡した計算用紙」<sup>7</sup>である。

(20) *Aytganday, Ashur, [don-ni topshir-gan] hujjat-lar-ing-ni to'g'rila-b,*  
 by.the.way NAME crop-ACC pass-PTCP.PAST paper-PL-2SG-ACC put.in.order-CVB

*hokimlik-ka hisob ber-ish-ni unut-ma.*  
 government-DAT calculation give-VN-ACC forget-NEG

「ところで、アシュル、あなたが穀物を渡した書類を整理して、役場に説明すること  
 を忘れるな。」 (BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 4447)

(21) *Ashur fermer tuman don qabul qil-ish punkt-i-ga bor-ib,*  
 NAME farmer district crop acceptance do-VN center-3.POSS-DAT go-CVB

*[don topshir-gan] hisob varaqa-lar-i-ni sol-ish-tir-ib,*  
 crop hand-PTCP.PAST calculation paper-PL-3.POSS-ACC put-RECP-CAUS-CVB

<sup>7</sup> ウズベキスタンでは、農家は日本でいう農協のような場所に収穫物を集める。(20) と (21) における書類は、その際に発行される書類のことを指す。さらに、この書類を役所に持って行くことが義務付けられている。

*hujjat-lar-ni joy+joy-i-ga qo'y-di-φ=da, rais ayt-gan=day*  
paper-PL-ACC place+place-3.POSS-DAT put-PAST-3SG=and leader say-PTCP.PAST=like

*hokimlik-ka hisobot topshir-di=φ.*  
government-DAT report hand-PAST=3SG

「アシユル農夫は地域穀物受け入れセンターに行って、穀物を渡した計算用紙を置いて、書類をそれぞれの場所に置いて、会長に言われたように役所に報告した。」

(BeshQiz\_va\_BirYigit.txt: 4492)

次に動名詞の場合について述べる。具体的な例としては、(22) を挙げることができる。

- (22) *[[natija-lar-ning 18 avgust-da chiq-ish] ehtimol-i]*  
result-PL-GEN August-LOC go.out-VN possibility-3.POSS  
「その結果が 8 月 18 日に出る可能性」(18\_08\_2015: 19)

さらに、上記の場合と異なり、主要部名詞と、特定の格ないしは後置詞が組み合わさって、副詞節を形成する場合がある。これは (23) にある *munosabat-i bilan*<sup>8</sup> [relation-3.POSS with] 「～するために (lit. 関係で)」が該当する。

- (23) *1 avgust kun-i [[oliy o'quv yurt-lar-i-ga test sinov-lar-i*  
August day-3.POSS top study nation-PL-3.POSS-DAT test candidate-PL-3.POSS  
  
*o't-ish-i] munosabat-i] bilan Toshkent-da jamoat transport-lar-i*  
pass-VN-3.POSS relation-3.POSS with NAME-LOC public transport-PL-3.POSS

*jadval-i-da o'zgarish-lar bo'l-a-di.*  
timetable-3.POSS-LOC change-PL be-NPST-3SG

「8 月 1 日、大学に受験者を通すために (lit. 関係で)、タシケントで公共交通機関の時刻表に変化がある。」(13\_07\_2015: 7)

さらに、*natija-si-da* [result-3.POSS-LOC] 「～した結果」という例 (24) もある。

- (24) *[[Qor eri-sh-i-ning kuchay-ish-i] natija-si]-da*  
snow melt-VN-3.POSS-GEN become.strong-VN-3.POSS result-3.poss-LOC

<sup>8</sup> 主要部が *munosabat* である例はコーパス中に 3 例ある。いずれも *bilan* が後置する。



9-12 iyul kun-lar-i      Termiz post-i-da      Amudaryo suv-i      400-430  
 July day-PL-3.POSS    NAME spot-3.POSS-LOC NAME      water-3.POSS

santimetr-gacha kotar-il-ish-i      kut-il-ayap-ti.  
 senmeter-until lift-PASS-VN-3.POSS expect-PASS-PROG-3SG

「雪どけが多くなった結果、7月9日から12日、テルメズ地区でアムダリアの水が400から430センチメートルまで上がることが予期されている。」(10\_07\_2015: 15)

上記 (23), (24) については3節で再度議論する。

次に、主要部名詞について分析する。まず主要部名詞句全てを以下に挙げる。以下、名詞語幹のみ挙げる。

表 4: 主要部名詞一覧

<p>davr 「時」、ehtimol 「可能性」、ehtiyoj 「必要性」、hajm 「量」、harakat 「動き、活動」、huquq 「権利」、imkon, imkoniyat 「可能性」、ish 「仕事」、maqsad 「目的」、masala 「問題」、munosabat 「関係」、natija 「結果」、shahobcha 「部門」、shart 「条件」、sir 「秘密」、so‘z 「言葉」、tadbir 「行為」、taraddud 「準備、世話」、tarix 「歴史」、tartib 「規則」、urinish 「試み」、xavf 「危険」、zarurlik 「必要性」</p>
---

上の表を見ると、形動詞同様、抽象的な概念を表す語が多い。

## 2.6. 主要部名詞句なし

主要部名詞句がない形動詞は、それ自体で、動作主を表す場合と動作の対象を表す場合がある。以下、それぞれ、前者は (25) と (26) に、後者は (27) に例を挙げる。なお、テキストデータからは -yotgan のデータは得られなかった<sup>9</sup>。

(25) Qurbon-lar va [jarohat ko‘r-gan-lar] borasida aniq raqam  
 victim-PL and injury see-PTCP.PAST-PL concerning clear number

ber-il-gan-i      yo‘q.  
 give-PASS-PTCP.PAST-3.POSS no

「犠牲者と怪我にあった人たちに関して明確な数はわからない (lit. 与えられていない)。」(15\_08\_2015: 23)

<sup>9</sup> ただし、Bodrogligeti (2003: 624) は、以下のように、主要部名詞句なし -yotgan の例を挙げている。  
 Bil-ma-y-di=ki, qozon-ni qaynat-ayotgan men emas, Rahmahon ovoz-i.  
 know-NEG-NPST-3SG=CMP pot-ACC boil-PTCP.PROG 1SG NEG NAME voice-3.POSS  
 「彼女は知らない、鍋を沸かしているのは私ではなく、ラヒマホンの声であることを。」

(26) *oddiy o'zbekistonlik-lar ora-si-da [o'zbek mulozim-i-ning bu*  
 normal Uzbekistan.people-PL between-3.POSS-LOC Uzbek servant-3.POSS-GEN this

*fikr-lar-i-ga qo'sh-il-ma-ydigan-lar] ko'pchilik-ni tashkil qil-a-di.*  
 idea-PL-3.POSS-DAT add-PASS-NEG-PTCP.PROG-PL most-ACC forming do-NPST-3SG

「普通のウズベク人の間では、ウズベク人従業員のこの考えに与さない人々がほとんどである。」(01\_07\_2014: 42)

(27) — *Chet el-dagi fermer-lar ham xuddi shun-day ishla-sh-ar*  
 foreign ground-ADJLZ farmer-PL also exactlythat-like work-RECP-PTCP.FUT

*ekan-φ, — de-di-φ Gulchera [bir vaqt-lar gazeta-dan*  
 EKAN-3SG say-PAST-3SG NAME one time-PL newspaper-ABL

*o'qi-gan-lar-i-ni] esla-b.*  
 read-PTCP.PAST-PL-3.POSS-ACC remember-CVB

『外国にいる農民もまさにそのように働いています』と、グルチェラはあるとき新聞から読んだことを覚えていて、言った。」

### 3. 底の接続助詞化について

寺村 (1993b: 300-8) は連体修飾節＋主要部名詞が全体で主節を副詞的に修飾するような構文について分析・考察している。その中でも、比較的名詞性が高く、副詞性が高いものを抽出して考察している。寺村 (1993b: 301) は名詞の独立性の高さを検証するテストとして次のようなものを挙げている：①「コレハ (ガ) \_\_\_\_\_ ダ」、②「[名詞] ノ \_\_\_\_\_、コ (ソ、ア、ド) ノ \_\_\_\_\_」。続いて、副詞性の高さを検証するテストとして、「ニ」がなくても後ろへ連用的にかかれるかどうかというテストを挙げている (寺村 1993b: 302)。これらに当てはまる名詞は「トキ」「アイダ」「コロ」「タビ」「場合」などである。

ウズベク語の場合、名詞性を失い副詞的に用いられる品詞としては「後置詞」が挙げられる。以下は、原因・理由を表す後置詞 *uchun* の例を挙げる。

(28) *U asos sol-gan Lashkari Jangvi radikal guruh-i aksariyat-i*  
 3SG basic put-PTCP.PAST NAME radical group-3.POSS mass-3.POSS

*[[shia-lar bo'l-gan yuzlab kishi-lar-ning o'ldir-il-ish-i] uchun]*  
 shi'ah-PL be-PTCP.PAST hundred.of person-PL-GEN kill-PASS-VN-3.POSS for

*mas'uliyat-ni o'z zimma-si-ga ol-gan-φ.*

responsibility-ACC REFL responsibility take-PRF-3SG

「彼が本拠としたラシュカリ・ジャングビという急進的組織の大多数は、シーア派であった何百もの人が殺されたことに対して、声明を出している (lit. 責任を自身の責任に取っている)。」 (29\_07\_2015: 19)

もちろんこの後置詞自体は格接辞も所有人称接辞も取らない＝名詞性はないが、主節あるいは主節動詞を修飾するという副詞節を形成するという機能を持つ。では、2節で挙げた例の中に名詞でありながらも後置詞のように機能する例はないのだろうか。それは2.5節で挙げた (23) (= (29)) と (24) (= (30)) である。

(29) *1 avgust kun-i [[oliy o'quv yurt-lar-i-ga test sinov-lar-i*  
August day-3.POSS top study nation-PL-3.POSS-DAT test candidate-PL-3.POSS

*o't-ish-i] munosabat-i] bilan Toshkent-da jamoat transport-lar-i*  
pass-VN-3.POSS relation-3.POSS with NAME-LOC public transport-PL-3.POSS

*jadval-i-da o'zgarish-lar bo'l-a-di.*  
timetable-3.POSS-LOC change-PL be-NPST-3SG

「8月1日、大学に受験者が通るために (lit. 関係で)、タシケントで公共交通機関の時刻表に変化がある。」 (= (23))

(30) *[[Qor eri-sh-i-ning kuchay-ish-i] natija-si]-da*  
snow melt-VN-3.POSS-GEN become.strong-VN-3.POSS result-3.POSS-LOC

*9-12 iyul kun-lar-i Termiz post-i-da Amudaryo suv-i 400-430*  
July day-PL-3.POSS NAME spot-3.POSS-LOC NAME water-3.POSS

*santimetr-gacha kotar-il-ish-i] kut-il-ayap-ti.*  
senmeter-until lift-PASS-VN-3.POSS expect-PASS-PROG-3SG

「雪どけが多くなった結果、7月9日から12日、テルメズ地区でアムダリアの水が400から430センチメートルまで上がることが予期されている。」 (= (24))

(29) では、三人称所有人称接辞が主要部名詞のみならず従属部自体にも付く。(30) も同様である。これらの場合、従属部の三人称所有接辞は従属部主語の数・人称を表す、主要

部の接辞は PC を作るために機能している。1.2 節の (3) を見れば、動名詞による連体修飾構造は主要部名詞にしか三人称所有人称接辞が付かない。したがって、これらの例はイレギュラーであると言える。

では、なぜ (29) と (30) のように、従属部と主要部にそれぞれ三人称所有接辞が付くのか。(29) と (30) の主要部名詞が特定の格・後置詞と強く結びつき、一つの後置詞のように機能している。先の (28) で示したように、動名詞の後に後置詞が続く場合、動名詞自体に所有人称接辞が付き主語の数・人称が表わされる。つまり、(29) の *munosabat-i bilan* と (30) の *natija-si-da* が、(28) の *uchun* のような一語の後置詞に近づいている。

さらに、(30) の連体修飾構造は、寺村 (1993a: 287) のいう「逆補充」の例である。つまり、連体修飾節が表わす事態が主節が表わす事態の原因となっている。寺村 (1993a: 288) は日本語の連体修飾構造が「逆補充」の用法を持つことに関して、これを「日本語の一つの特徴といってもよいかもしれない」と述べているが、ウズベク語にもそのような用法があることが確認された。

#### 4. おわりに

本稿は、まず、ウズベク語の連体修飾構造が形動詞が接近可能性階層内および階層外をカバーし、動名詞は階層外のみカバーすることを示した。連体修飾構造の主要部名詞に格が付いたり後置詞が続いて、副詞節として機能することに着目した。特に動名詞による連体修飾構造では、主要部名詞が後置詞のようにふるまうことを確認した。さらに、「逆補充」用法があることも確認した。

#### 略号一覧

-		接辞境界	NAME	proper noun	固有名詞
=		接語境界	NEG	negative	否定
+		複合語境界	NPST	non-past	非過去
1, 2, 3		1, 2, 3 人称	PAST	past	過去
ABL	ablative	奪格	PASS	passive	受身
ACC	accusative	対格	PL	plural	複数
ADJLZ	adjectivalizer	形容詞	POSS	possessive	所有
CAUS	causative	使役	PROG	progressive	進行
CMP	complementizer	補文マーカー	PRF	perfective	現在完了
CVB	converb	副動詞	PTCP	participle	形動詞
DAT	dative	与格	RECP	reciprocal	相互
FUT	future	未来	REFL	reflexive	再帰
GEN	genitive	属格	SG	singular	単数
LOC	locative	位置格	VN	verbal noun	動名詞

#### 参考文献

Abdurahmonov, G'. A. va Sh. Sh. Shoavdurahmonov, A. P. Hojiyev (1975) *O'zbek tili grammatikasi I-tom Morfologiya*. [ウズベク語文法 第1巻 形態論] Toshkent: O'zbekiston SSR 《Fan》

nashriyoti.

Bodroglieti, Andràs J. E. (2003) *An academic grammar of Modern Literary Uzbek*. München: Lincom Europa.

Boeschoten, Hendrik. (1998) Uzbek. Johanson, Lars and Éva Á. Csató (eds.) *The Turkic languages*. 357-78. London, New York: Routledge.

Comrie, B (1989) *Language universals and Linguistic Typology. Syntax and Morphology. Second Edition*. Oxford: Basil Blackwell. [松本克己・山本秀樹訳 (1992) 『言語普遍性と言語類型論 — 形態論と統語論 —』 東京: ひつじ書房]

Keenan, E. L. and Bernard Comrie. (1977) Noun Phrase Accessibility and Universal Grammar. *Linguistic Inquiry*. 8 (1): 63-99.

Kononov, A. N. (1960) *Grammatika sovremennogo Uzbekskogo literaturnogo iazyka*. [現代標準ウズベク語文法] Moskva, Leningrad: Izdatel'stvo akademii nauk SSSR.

Reshetov, V. V. va S. I. Ibrohimov, U. T. Tursunov, F. K. Kamolov (1966) *Hozirgi O'zbek Adabiy tili I Fonetika, Leksikologiya, Morfologiya*. [現代ウズベク標準語 I 音韻論、語彙論、形態論] Toshkent: O'zbekiston SSR "Fan" nashriyoti.

Sjoberg, F. Andrée. (1963) *Uzbek Structural Grammar*. Uralic and Altaic Series, Vol.18 Indiana University, Bloomington.

寺村秀夫 (1993a) 「連体修飾のシンタクスと意味—その 3—」『寺村秀夫論文集 I —日本語文法編—』 261-296. 東京: くろしお出版. [初出: (1977) 『日本語・日本文化』 6: 1-35]

\_\_\_\_\_ (1993b) 「連体修飾のシンタクスと意味—その 4—」『寺村秀夫論文集 I —日本語文法編—』 297-320. 東京: くろしお出版. [初出: (1978) 『日本語・日本文化』 7: 1-24]

#### 調査資料

Beknazarov, O'roz va Ismoil Yuldashev (2007) *Besh qiz va Bir yigit*. Toshkent: Cho'lpon nomidagi nashriyot-matbaa ijodiy uyi.

*Ozodlik radiosi* (<http://www.ozodlik.org>) [最終閲覧日: 2016/04/29]

[エリシテーション調査から] 追加用例とその分析・考察

内の関係も外の関係も *-gan* で表すことができる。次の (1), (2) はネイティブチェック済みの作例である。

(1) 内の関係:

a. [ <i>o'qituvchi sot-ib ol-gan</i> ]	<i>kitob</i>	b. [ <i>kitob sot-ib ol-gan</i> ]	<i>o'qituvchi</i>
teacher sell-CVB take-PTCP.PAST book		book sell-CVB take-PTCP.PAST teacher	
「先生が買った本」		「本を買った先生」	

(2) 外の関係:

[ <i>prezident kel-gan</i> ]	<i>xabar</i>
president come-PTCP.PAST news	
「大統領が来た（という）ニュース」	

続けて、外の関係にある [*balik pishir-gan*] *hid* 「魚を焼いた臭い」が許容されるかどうかを尋ねた。しかし、母語話者はこれだけでは文にならないと言い、(3) を挙げた。

(3) [ <i>balik pishir-gan</i> ]	<i>hid</i>	<i>butun xona bo'ylab tarqal-di-<math>\phi</math>.</i>
fish cook-PTCP.PAST smell all room around spread-PAST-3SG		
「魚を焼いた臭いが部屋中に広がった」		

ただし、これよりも、(4) のほうが普通であると指摘した。

(4) <i>Xona bo'ylab [pishir-il-gan]</i>	<i>baliq-ning hid-i</i>	<i>tarqal-di-<math>\phi</math></i>
room around cook-PASS-PTCP.PAST fish-GEN smell-3SG.POSS spread-PAST-3SG		
「部屋中に焼かれた魚の臭いが広がった。」		

さらに、[*balik pishir-gan*] *hid* 「魚を焼いた臭い」を使いたければ、次のように使ったほうがよいと指摘した。

(5) [ <i>Baliq pishir-gan</i> ]	<i>hid</i>	<i>kiyim-im-ga o'tir-ib qol-di-<math>\phi</math>.</i>
fish cook-PTCP.PAST smell cloth-1SG.POSS-DAT sit-CVB remain-PAST-3SG		
「魚を焼いた臭いが私の服に染み込んだ (lit. 座って残った)。」		

(6) [ <i>Baliq pishir-gan</i> ]	<i>hid</i>	<i>ko'ngl-im-ni ko'tar-di-<math>\phi</math>.</i>
fish cook-PTCP.PAST smell heart-1SG.POSS-ACC lift-PAST-3SG		

「魚を焼いた臭いが気持ち悪くさせた (lit. 心を持ち上げた)。」

以上より、外の関係にあり且つ *hid* 「臭い」を主要部にした連体修飾構造には、何らかの語用論的な制約がかかっていると判断できる。上の用例を比較すると、臭いが話者自身(もしくは他の誰か)に影響する場合=匂いの動作性が比較的高い場合に許容されやすいのではないか。つまり「動作性の高さ」が *-gan* による外の関係の許容度に関係している(と言えるか?)。